

「土と兵隊」(日活多摩川、1939年、田坂具隆監督)撮影台本  
日活多摩川作品を代表する名俳優  
小杉勇の遺品。

展覧会

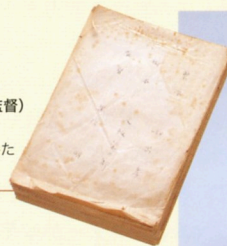
# 映画遺産

東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより



「土と兵隊」中国ロケを記念して  
小杉勇に贈られた日の丸

「白痴」(松竹大船、1951年、黒澤明監督)  
撮影台本生原稿  
数々の黒澤映画で企画、製作を担当した  
本木荘二郎の旧蔵資料。



「羅生門」(大映京都、1950年、黒澤明監督)  
ヴェネチア国際映画祭金獅子賞トロフィー  
1951年のグランプリ受賞に際し、関係者に配られた  
レプリカの一つ。

歴史的な装置、映画人の遺品、発掘された映画たち…  
開設以来50年の間に収集された貴重なコレクションを一挙公開

## 2002年11月27日[水] オープン

### 東京国立近代美術館 フィルムセンター展示室(7階)

料金:一般200(100)円/高校・大学生・シニア100(50)円/小・中学生無料

\*( )内は20名以上の団体料金です。

\*フィルムセンター大ホールで映画をご覧になった方は、当日に限り半券のご提示により団体料金が適用されます。

\*シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示下さい。

開室時間:午前10時30分～午後6時(入場は午後5時30分まで)

休室日:毎週月曜日および映画の休映日(当センターのチラシ、ホームページをご参照下さい)

2003年3月までの休映日:2002年12月26日(木)～2003年1月6日(月)/1月20日(月)～1月27日(月)/  
3月31日(月)～4月7日(月)

主催:東京国立近代美術館フィルムセンター

協力(五十音順):(協)日本映画撮影監督協会、(社)日本映画製作者連盟、

(社)日本映画テレビ技術協会/(株)エコー、松竹(株)、大映(株)、東映(株)、

東宝(株)、日活(株)、虫プロダクション(株)



フォーウィック 撮影機

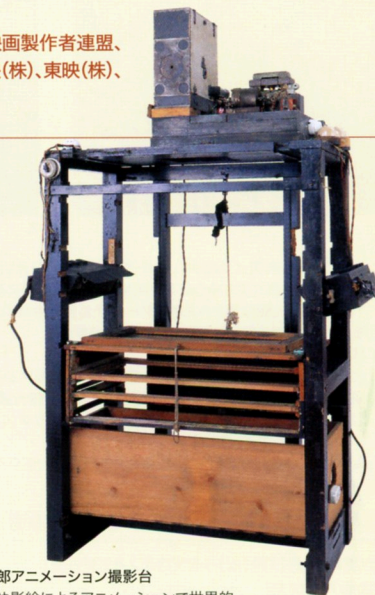
初期の映画スタジオで活躍した木製箱型のカメラ。  
Mパター商会では白瀬轟中尉の第二次南極探検(1910～1912年)  
の記録にも用いられた。



「日本南極探検」(Mパター商会、1912年、田泉保直撮影)



大藤信郎千代紙作品



大藤信郎アニメーション撮影台  
千代紙や影絵によるアニメーションで世界的  
にも有名な大藤信郎自作の撮影台。

## The Japanese Film Heritage

—From the Non-film Collection of the National Film Center—



「新平家物語」(大映京都、1955年、溝口健二監督)

↑ 衣裳デザイン

← セット・デザイン

溝口作品の世界的名声を支えた美術監督水谷浩の遺品。

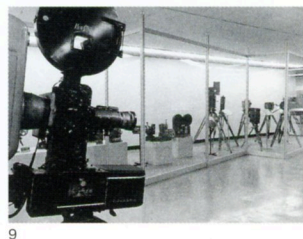
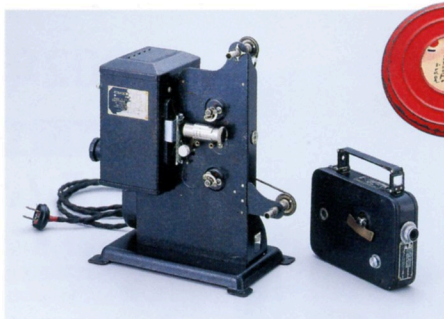
# 展覧会 映画遺産

東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより

「国立近代美術館」(現東京国立近代美術館)の設置に伴い、国立機関としては日本で唯一の映画部門「フィルム・ライブラリー」(現フィルムセンター)が誕生したのは、1952(昭和27)年のことでした。それからちょうど50年目にあたる今年、フィルムセンターでは新たに映画部門専用の展示室をオープンするとともに、その最初の企画「展覧会 映画遺産 —東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—」を開催することとなりました。

映画の生誕から107年目を数え、映像の時代が第2世紀を迎えた現在、文化遺産あるいは歴史資料としての映画を散逸から守ることは、ますます大きな課題となりつつあります。開設以来、フィルムセンターが収集してきたフィルム素材も現在では30,000本近くを数えるに至っていますが、これらと並びコレクションの重要な位置を占めているのが20,000冊以上の映画図書や30,000冊の撮影台本、42,000枚のポスター、372,000枚のスチル写真、その他の映画関係資料です。

本展覧会は、半世紀の間にフィルムセンターが収集してきた膨大な映画資料の中から、映画人の遺品や初期の映画機械など、とくに公開の機会が限られていた珍しいコレクションを一堂に集めて展示するもので、同様の展示企画としては1970(昭和45)年開館当時のフィルムセンター常設展以来の規模となります。さらに本展では、これまでにフィルムセンターが行なってきた映画の発見・復元の成果を紹介しながら、日本の映画保存運動の軌跡を振り返ります。フィルムセンターが誇る貴重なコレクションの数々を、どうぞこの機会にご覧ください。



1. 「カメラを持った男」(1929年、ジガ・ヴェルトフ監督)オリジナル・ポスター  
戦前の日ソ映画交流に中心的な役割を果たした袋一平の旧蔵資料。  
1930年の訪ソ後に開かれたポスター・スチル展当時のコレクション。
2. モスクワにおける日本映画展の会場(1930年頃)
3. ハルボ撮影機  
ベル&ハウエルとともに撮影者の人気を二分した、無声映画の黄金期を代表する名機。
4. 「続大岡政談 魔像解決篇」(日活大森、1931年、伊藤大輔監督)撮影スナップ  
(左より)大河内傳次郎、伊藤監督、唐沢弘光カメラマン。
5. シネ・コダック・エイト20型とコダスコープ25型  
8mm映画の日本発売(1932年)直後に五所平之助監督が購入したカメラと映写機。

6. スタチオフ製作8mm映画(1935年)  
五所平之助が若い映画人を集めて結成した映画グループ「スタチオフ」製作(川喜田社太郎撮影)。  
若き日の成瀬巳喜男や藤本真澄の姿も記録されている。
7. スタチオフ主催優秀映画鑑賞会記念写真(1934年頃)  
(中列左より)川喜田社太郎、成瀬巳喜男、五所平之助、川端康成、岸松雄、藤本真澄。
8. フィルムセンター開館ポスター  
ニューヨーク近代美術館との共催で開かれた1970年の開館記念特集ポスター。
9. フィルムセンター開館当時の展示会場風景

## 展示室のオープンを記念して、国内の著名なコレクションからも特別出品

2002年11月27日(水)～2003年2月23日(日)

「羅生門」扁額 (宮川二郎氏所蔵)

「羅生門」(大映京都、1950年、黒澤明監督)の撮影に使われた小道具。ヴェネチア国際映画祭グランプリ受賞を記念して大映社長永田雅一より宮川一夫カメラマンへ贈られたもの。

2002年11月27日(水)～2003年2月2日(日)

シネマトグラフ・リュミエール (川喜多記念映画文化財団所蔵)

リュミエール兄弟の発明になる最古の映画機械。川喜多かしこがアンリ・ラングロワ(シネマテーク・フランスーズ)より譲り受けたもので、日本に現存する数少ないオリジナルの一つ。

2003年2月4日(火)～3月30日(日)

和製プロジェクティング・キネスコープ (早稲田大学坪内博士記念演劇博物館所蔵)

1901～02(明治34～35)年頃に高橋彌次が作ったとされる現存する最古の和製映写機で、エジソンのプロジェクティング・キネスコープをモデルにしている。活動弁士、駒田好洋の旧蔵資料。

2003年4月8日(火)～6月1日(日)

初期ゴーモン映写機 (横田雅夫氏所蔵)

日本映画史のバイオニア、横田永之助が1900(明治33)年にフランスから持ち帰ったとされるゴーモン映写機の初期モデル。戦前の映画展覧会でも人気を集めた横田家伝来の家宝。



〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6  
お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600  
東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

### ▼ 交通

- 営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

